

九セミ ぶくおか おっしょゆ!

アベ「働き方改革」を打ち破り 健康を創る働き方をめざそう 現地実行委員長あいさつ 舟越光彦さん(九州社会医学研究所、千鳥橋病院)

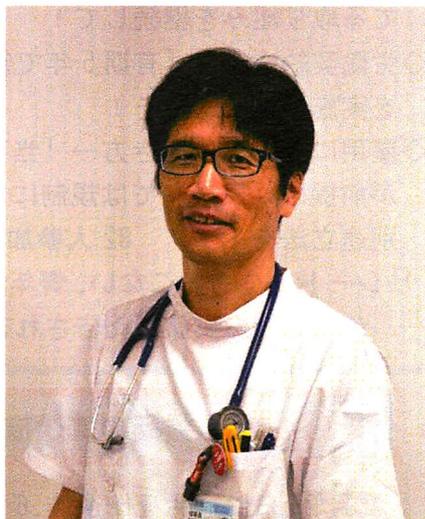
「人間らしく働くための九州セミナー」の福岡での開催は、2002年の13回大会以来、16年ぶりとなります。前回の福岡でのセミナーでは、24時間化する社会の状況を「眠らない街 福岡」と表現し、長時間労働や夜勤労働の問題について議論しました。

今回のセミナーでは、テーマを『アベ「働き方改革」を打ち破り、健康を創る働き方をめざそう。働く人びとの健康を決定する社会的決定要因と対策』としました。安倍政権の結果、貧困と格差は今までになく拡大し、社会的孤立も増加し深刻な生活困難を抱える人々が増大しています。貧富の差が拡大し「経済格差」が広がった結果、「健康格差」＝「健康の不等差・差別」も進行しています。

そこで、今回のセミナーでは、働く人びとの健康はどのような社会的決定要因に基づいて作られているかを明らかにし、その処方を考える中で健康を作り上げる、取り戻す運動の契機にしたいと考えました。

分科会のうち特別企画の1つ「外国人労働者（実習生）の働き方と健康」では、学生の皆さんが調査して、その成果を発表する企画です。九州セミナーとしては、学生による企画としては最も大規模なものであり、セミナー運動の発展にとって意義深い企画となっています。

セミナー期間中の2日間、大いに学び各地の運動の経験を交流し、実り多いセミナーとなることを期待したいと思います。



【開講講演】 健康の社会的決定要因

<講師プロフィール>
石竹達也 久留米大学医学部環境医学講座教授
振動障害、高圧環境（潜水）の健康影響、非正規雇用者の健康影響、医療従事者の健康影響などを研究。日本産業衛生学会（九州地方会理事）、日本臨床環境医学会（理事）、日本公衆衛生学会などに所属。第56回日本社会医学学会総会会長（2015年）。

【記念講演】 「働き方改革」のオモテとウラー「安倍一強」の落とし穴

<講師プロフィール>
風間直樹 ジャーナリスト、週刊東洋経済記者
早稲田大学政治経済学部卒業、同大学院法学研究科修了後、東洋経済新報社に入社。電機、金融担当を経て、雇用労働、社会保障問題等を取材。企業情報部にてIT・電機グループの産業担当デスク。
著書に、「雇用融解」（2007年）、「融解連鎖」（2010年）。

継続した学習を深めるためにプレ学習会

Vol.1「青年の働くルールと健康」5/12

北海学園大学 川村雅則教授の講演

- ◇現場に出て働く者の実態を調査することと「構造」を考える事、両方が大事！
- ◇自治体に対しても労働政策の条例を作らせる取り組みを！
- ◇学生に対する労働法教育の実践にも役立つ取り組みを継続して！
- ◇労働契約法改正「有期5年で無期転換」を実施させる運動を！
- ◇雇用によらない働き方→「当事者対等」が前提の「民法」では規制にならない。別途立法を！ **82人参加**

リレートークもおこない、青年労働者が置かれている実態が報告されました。

Vol.2「非正規雇用と女性労働」7/28

九大 錦谷まり子准教授の講演

- ◇正規雇用者数は10年前の水準とかわらないのに、非正規は1990年の870万人から2.4倍の2,090万人に！
- ◇全労働者にしめる非正規の割合も同時期20%から38.1%、4割に近づいてる！
- ◇女性は、家族の面倒をみるために非正規を選んだり、離職したりする率が高い！
- ◇女性の非正規化は、雇用主の意向だけでなく制度や社会政策の結果である。
- ◇女性が正規から非正規に「転換」してしまう契機となっている出産・育児・介護に対する公的支援の充実を！ **60人参加**

この日もリレートークで女性の働きかたの実態を学びました。

特別企画「過労死の御遺族のお話を伺う会」

8月25日に過労死御遺族、6家族の皆さんに御集りをいただき、この内3家族の皆さんからお話を伺いました。仮に労災認定されても「前に進めない」御遺族の苦悩にふれ「労働組合の役割」を深く考えさせられ、「過労死遺族を支える取組」の必要性を強く感じました。

Vol.3「就労世代の時間の貧困」

10/6 九大の浦川邦夫准教授に講演いただく予定でしたが、台風のため残念ながら中止になりました。

重要な切り口のお話、ぜひまた！

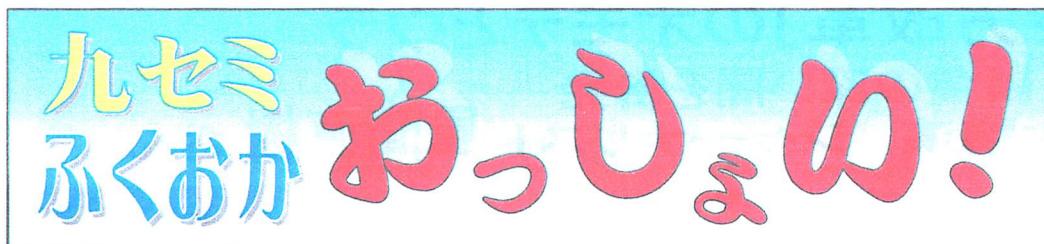
特別企画「アスベストシンポジウム」

10月15日天神ビルで150人の参加で開催。コーディネーター原田直子弁護士、シンポジストは、舟越光彦医師、福建労の丸林正二さん、伊黒忠昭弁護士、立命館大学講師の南慎二郎さん。様々な角度から問題提起が…。

アスベストによる病気、解体工事によるアスベスト建材の破碎で有毒な粉じんが住民の身に迫る危険性について強く警鐘を鳴らす取り組みになりました。



これまで、九州セミナーに向けて、10回の事務局会議、9回の実行委員会を開き、さまざまな取り組みを企画してきました。



人間らしく働くための九州セミナーin 福岡現地実行委員会 〒812-0011 福岡市博多区千代5-18-1
 TEL: 092-651-9882 FAX: 092-633-3311 E-mail: fukusemi29@gmail.com URL: <http://kyusemi.jp/>

九州セミナー始まる 九州・沖縄から700人超が参加

第29回人間らしく働くための九州セミナーin 福岡は、11月10日、福岡市・ももちパレスで開幕し、九州・沖縄から初日に700人以上が参加しました。2日目の11日は、ももちパレス、西南学院大学を会場にして、8つの分科会・特別企画でこの1年間の実践を発表し、学び合います。

田村昭彦・代表世話人会議長があいさつ



安倍政権は「働き方改革」として、過労死認定基準ギリギリまで認める労働基準法・労働安全衛生法等の改悪を行い、過労死促進制度ともいふべき「高度プロフェッショナル制度」の導入まで強行しました。今後は「個人請負・委託、フリーランス」といった個人事業主化をすすめ、「奴隷労働」ともいわれる技能実習生や留学生のアルバイト問題などの問題は放置したまま、外国人労働の受け入れを単純労働にも拡大しようとしています。「8時間働けば普通の暮らし」ができるディーセント・ワークの実現は焦眉の課題です。私たちは「人間らしく働く」事が出来る社会・地域を求めて30年間九州セミナー運動を重ねてきました。今こそ人間らしく働くことが出来る職場・社会を創り、基本的人権として、健康で生き・働く権利＝「健康権」を確立していく広範な運動が求められています。この2日間大いに学び、楽しみ、交流しましょう。

「健康の社会的決定要因」

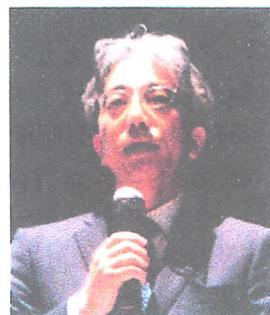
健康増進には関連部署の連携による行政介入が不可欠

開講講演 石竹達也さん(久留米大学医学部環境医学講座教授)

1日目の開講講演として久留米大学教授の石竹達也氏から「健康の社会的決定要因」についての概説を学習しました。

講演では、社会疫学研究の成果により明らかになってきた社会環境要因と健康との関連のなかで、職業階層の差や正規労働者と非正規労働者の差、失業などが、メンタルヘルスや身体症状などの健康や死亡リスクなどに関係があることが紹介されました。

石竹氏は、健康を決定づけるのは、保健医療以外の要素が大きいとして、政策決定において、保健医療以外のすべての政策分野で健康という視点をも



つ重要性を強調しました。健康格差の評価ツールとしてHIA（健康影響予測評価）と自治体における活用事例を紹介。行政評価の指標に健康＝幸福の視点を加えるHIAの役割の大きさを説明しました。健康維持増進には生活習慣などの個人的要因だけでなく社会的健康決定要因への行政の介入が不可欠であり、保健医療政策だけでなく複数の関連部署の協力での政策立案が重要であるとのべ、「健康の社会的決定要因」に目を向ける大切さを述べ、「すべての政策に健康を」とよびかけました。

「働き方改革」のオモテとウラ

個人請負の深い闇を告発

記念講演 ジャーナリスト 風間直樹 さん

記念講演では、ジャーナリストの風間直樹さん（週刊東洋経済記者）が、「残業大国ニッポン」の現実を語り、年間総労働時間は高止まり、うつ病など精神疾患による労災申請は右肩上がり、残業規制には抜け穴だらけだと述べ、「働き方改革」の残業規制の虚と実を解説し、経済界が求める裁量労働制拡大に注意を喚起しました。



外国人労働の拡大について、単純労働、人手不足業種＝3K 労働にあてようというもので、人権問題として懸念を表明。格差が問題なのに新たに別の階層をつくれれば、雇用の流動化を起こしかねないと述べました。

「個人請負」の実態を述べ、「冠婚葬祭互助会」最大手のベルコ（玉姫殿）は、全従業員 7128 人中、正社員は 32 人、残る 7000 人超が「業務委託」という実態を紹介。「非正規雇用」に輪をかけた無権利状態で、労働法規が一切適用されない個人請負のため、「解雇規制はなく、職を失っても失業保険給付がない。時間外、休日、深夜労働手当がなく、有給休暇もない。最低賃金も適用されず、年金や医療保険もすべて自己負担」と指摘。経済産業省が昨年 11 月に『「雇用関係によらない働き方」に関する研究会』を立ち上げ、厚生労働省の昨年 8 月の報告書「働き方の未来 2035」には、厚生労働省が担う労働政策を全面的に否定する内容がならぶと警告しました。

働き方改革で、有識者会議が当事者意識を失い官邸お任せがさらに加速し、労働側まで「付度」し、「安倍一強」が経団連と連合を押し切ったが、「緻密な議論の積み上げ欠いた今回の枠組みの土台は脆弱」だと指摘しました。

働く人びとの健康を決定する社会的要因と対策

パネルディスカッション 5人のパネリストがおおいに語り合う



舟越光彦さん



小松友子さん



八木大和さん



内田大亮さん



本多ミヨ子さん

パネルディスカッションでは、「働き方改革」の名の下に今後増加が懸念される最低賃金や各種保障から除外される労働者の実態を解明するとともに労働者の健康はどう作られていくのかを解明するために、田村昭彦議長をコーディネーターに5人が労働の現状の報告と討論を行いました。

本多ミヨ子さん（首都圏移住労働者ユニオン書記長）

「外国人労働者の働かされ方と健康破壊の要因」

内田大亮さん（福岡地区労働組合総連合事務局長）

「雇用によらない働き方（フリーランスの実態）」

八木大和さん（福岡第一法律事務所弁護士）

「雇用によらない働き方に関する私の体験と過労死に関する現状と問題点」

小松友子さん（福岡県商工団体連合会婦人部協議会会長）

「家族経営自営業者の劣悪な労働環境」

舟越光彦さん（九州社会医学研究所、福岡医療団医師）

「働く人びとの健康を決定する社会的要因と対策～医療機関の立場から～」



九セミ ぶくおか おっしょいぬ!



人間らしく働くための九州セミナーin ぶくおか現地実行委員会 〒812-0011 福岡市博多区千代 5-18-1
TEL: 092-651-9882 FAX: 092-633-3311 E-mail: fukusemi29@gmail.com URL: <http://kyusemi.jp/>

人間らしく働けるルールづくりへ 分科会「学び・調査し、行動」した約90の発表



2日目は、3つの特別企画と5つの分科会に分かれて、「学び・調査し、行動する」セミナー運動で、各地域、各団体・個人の実践や調査結果など約90の発表がありました。特別企画Cの「外国人労働者（実習生）の働き方と健康では、学生が半年余りかけて調査した成果を報告。特別企画Aでは「過労死・過労自死とアスベスト被害者の救済と支援を考える」をテーマに、被害者らが体験を訴えました。特別企画Bでは、医療関係者が医療現場で健康の社会的決定要因を捉えた治療や患者支援、患者の生活の質への支援などの実践を発表し合い、交流しました。

特別企画、分科会のテーマは以下の内容でした。

特別企画A 「過労死・過労自死とアスベスト被害者の救済と支援を考える」

特別企画B 「医療現場で健康の社会的決定要因を捉え、対策を考える」

特別企画C 「外国人労働者（実習生）の働き方と健康」

第1分科会 「労災職業病被害者の救済と支援」

第2分科会 「病気になった労働者の休む権利・働く権利～治療と仕事の両立支援～」

第3分科会 「働き方・貧困・無料低額医療」

第4分科会 「職場の労働安全衛生活動」

第5分科会 「労働安全衛生活動メンタルヘルス・長時間・他」

九州・沖縄のなかまが結集 夕食交流会 食べて飲んで語って、笑顔

「楽しくなければ、九州セミナーではない!!」このモットーのもと、11月10日、夕食交流会がハイアットリージェンシーで開かれました。



来年は長崎で会うバイ!

来年の第30回人間らしく働く九州セミナーは長崎で開催されます。第30回という節目になります! みなさん大事な節目となる1年間取り組みの成果や課題を持ち寄り長崎で会うバイ!

日程:2019年11月30日(土)~12月1日(日)

